

茶学総合講座開講式
H.25.6.5

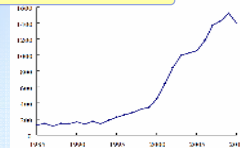
茶の栽培加工から
機能性、販売、経営手法まで総合的に科学する!!

茶学総合講座の開設

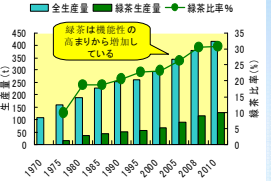


静岡県立大学
UNIVERSITY OF SHIZUOKA

茶を巡る現況

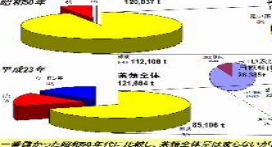


茶の機能性(カテキン)に関する論文数の推移



世界の茶の生産量と緑茶比率の推移

儲かった時代と需給構造が変化している!!

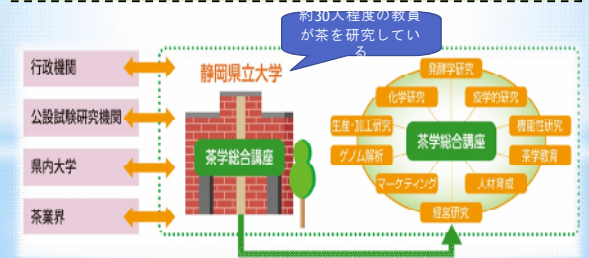


約30入程度の教員が茶を研究している

茶の機能性が科学的にも明らかにされ、生産量は緑茶を中心に、毎年10万程度ずつ増加しているが、国内では需給の歪みが生じている。

目的および組織体制

大学内の各教員が茶の研究を各々の専門性を活かして実施している。これらの情報を一元化するとともに、相互に連携した取組みを行う。また、県内の他大学や公設試験研究機関をはじめ行政・茶業界とも連携して茶業振興に貢献する。



目指す研究内容



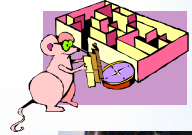
- 1 緑茶の機能性及び疫学に関する研究
緑茶の機能性の強化と各種疾病との関連を調査する
- 2 茶学教育と人材育成
茶の都を牽引し、お茶の総合的知見を有する人材を育成する
- 3 茶葉及び茶飲料の嗜好特性の解析
品質特性の評価と嗜好性の解析により販売促進戦略を構築する
- 4 茶の高付加価値化とマーケティング
消費者視点に立った緑茶のマーケティング戦略を調査研究する

1. 緑茶の機能性及び疫学に関する研究

本県が「健康長寿日本一」であることと「緑茶飲用」との関連を機能性及び疫学面より調査し、科学的なエビデンスを明らかにする。


緑茶の抗ストレス性の説明

- ・香味茶や白茶茶などの新茶種の香味が抗ストレスに及ぼす影響を調査する
- ・マウスを用いた緑茶テアニンの抗ストレス作用を解明する



緑茶摂取量と各種疾病発生率との関連

疫学的な調査により、健康度に対する緑茶摂取量との関係を明らかにする



2. 茶学教育と人材育成

お茶に関して総合的知識・情報をもつ人材や経営能力の高い人材の育成を目指したイベントを開催する。


茶に関する幅広い分野を学ぶ茶総合セミナーの開催

茶の機能性の英語版Web作成と世界への情報発信

茶業関係者の経営能力向上のためのセミナーの開催

県民への茶に関する総合相談窓口の開設

茶学総合講座の門戸を幅広く開放し、「茶の都」をけん引する、お茶の総合的知見を有する人材を上記イベントを通して育成するとともに総合的な学術情報をデータベース化し、世界に発信する。



3. 茶葉及び茶飲料の嗜好特性の解析

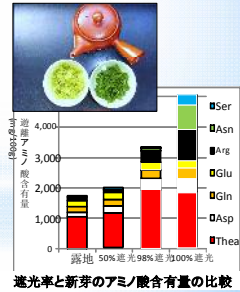
本県各地の銘茶や新品種についてそれらの製法とともに商品としての完成度の向上、販売促進戦略などを支援する。

高アミノ酸含有白葉茶の最適溶出条件

白葉茶はアミノ酸含有量が普通煎茶の2~3倍高い。アミノ酸の種類により溶出速度が異なるため「茶量」、「浸出時間」、「浸出液の温度」を組合せ、消費者が飲んで美味しいと感じる最適溶出条件を明らかにする



普通のお茶とは異なった淹れ方が必要な？



4. 茶の高付加価値化とマーケティング

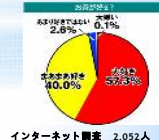
緑茶の高付加価値化とともに、「消費者が買いたくなるお茶」についての市場調査とその活用を図るなど緑茶のマーケティングの推進を支援する

大消費地の消費者を対象としたアンケートとその解析

- ・緑茶への顕在ニーズの把握および、潜在的ニーズの把握
- ・異業種の連携による価値創造の可能性の探索(茶×観光、茶×スイーツ、等)
- ・静岡駅、飲食店などをメディアとした茶産地マーケティングの方向性の探索

消費者の購買行動の解析

「消費者が買いたくなるお茶」。特に、店頭において手に取りたくなる要因(パッケージ、中味、値段等々)について、さまざまな階層の消費者を対象に調査を重ねる。



県民の皆様とともに歩む茶学総合講座をめざす

- ①茶研究の深化
- ②茶研究の産業への貢献
- ③静岡からの情報発信
- ④各分野の有機的な連携強化

茶学総合講座

統括 中村 順行 特任教授
顧問 伊勢村 謙 客員教授
所轄 小林裕和 食品栄養環境科学研究院長